



## 慶應義塾大学ビジネス・スクール

# 青梅慶友病院と大塚宣夫

青梅慶友病院は1980年に精神科医師の大塚宣夫氏によって設立された老人病院であるが、現在  
5  
ではベッド数798、スタッフ840人を擁する大病院となり、入院待機者が常時600人以上にのぼ  
るといわれている。大塚氏は早くから、病院はサービス業であると定義し、独自の病院経営理念  
と斬新な施策によって注目を集めてきた。大塚氏は「自分の親を安心して預けられる施設作り」  
を志して病院を始めたが、政府・業界の規制が厳しい医療業界において業界の常識に反する考え  
方や施策を打ち出し、いまなお理想の老人病院に向けて進化を遂げていた。<sup>1)</sup> 10

大塚宣夫氏は1942年生まれ、1968年に慶應義塾大学医学部を卒業した。専門は精神科で勤務  
医となったが、71年から2年間フランス政府給費留学生として渡仏し精神薬理学を研究した。帰  
国の翌年に友人に依頼されて初めて老人病院を見た衝撃から、自ら老人病院開設を思い立ち、ア  
ルバイトに精を出して資金を貯め、支援者との出会いに恵まれて80年に病床数147の老人病院を  
東京都下青梅に開業した。 15

ケースライターは2003年8月、青梅市の慶友病院で大塚宣夫氏に面会し、病院設立の経緯、病  
院経営の理念、医療政策に対する考え方、起業家精神の興隆策などについて意見を聞いた。

---

<sup>1)</sup> 病院は「一般病院」、高度先進医療に対応する「特定機能病院」、および成人病や老人病など3ヶ月以上の長期入院を主とする「療養型病床群」に分けられる。一般に「老人病院」といわれているのは、入院患者の6割以上が65歳以上の人で占められ、一般の病院より医師や看護師の数が少なく、その代わり介護の専門スタッフをおくことを義務付けられている病院で、急性期の治療が終わり、なお医療と介護が必要な老人のための病院である。

---

本ケースは中村学園大学教授石田英夫が作成した。ケースは経営管理に関する適切あるいは不適切な処理を例示しようとするものではない。ケースの作成に当たって、大塚宣夫氏ほか青梅慶友病院スタッフの方のご協力をいただいたことを感謝したい。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール(〒223-8523 神奈川県横浜市港北区日吉本町2丁目1番1号、電話045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp)。また、注文は<http://www.kbs.keio.ac.jp/> 慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法(電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない)による伝送も、これを禁ずる。

Copyright© 石田英夫 (2004年11月作成、2008年2月改訂)